

(資料 1 学生アンケート)

在学生を対象とする大学院設置に関するアンケート調査結果(2012年3月実施)

【アンケート内容】

下記内容を確認し、設問に回答。

【星槎大学大学院の設置に関するアンケート】

本学では、大学院(共生科学部を基礎とした教育学研究科教育学専攻)(通信の課程)設置を準備しています。ここでは、共生科学の研究から導き出される教育へのアプローチを研究する修士課程の学修をします。より多くの方に学んでいただくために、学部同様、通信教育課程にて開設を準備しています。内容をご確認いただき、以下のアンケートにご回答ください。

【人材養成目標】

- ①小学校における高度実践型教員の養成
 - A 高度な授業実践力を備えた中堅教員の養成
 - B 「特別な教育的ニーズ」を持つ児童に対応する専門的力量を備えた教員の養成
 - C 学校現場が抱える諸課題を解決できる高度な実践力を備えた指導的役割を果たす教員の養成
- ②地域の教育・福祉に関わる諸課題に協働して取り組むことができる教育・福祉関連業務に従事する高度専門職業人
- ③特別支援教育に携わる研究者

【教育内容】

開設科目は、人材養成目標に応じ、以下の4区分で開設します。

- ①「基幹科目群」

我が国の教育課題を俯瞰しつつ、本学の建学の精神に掲げる共生の理念を踏まえ、学校現場や地域における実践的研究課題の発見・設定の基礎となる教育社会学的ならびに教育工学的素養を涵養する科目、実践的研究の基礎となる教育心理学的素養を涵養する科目、教育課題やその解決技法を所属する教員および院生の相互交流において共有を図る科目、を開設します。
- ②「専門科目群」

共通領域、教育学、教育心理学および教育方法学において、研究状況の正確な把握を通して俯瞰的な視座より学校現場や地域における実践的研究課題を発見・設定し、事例研究、フィールドワーク、アクションリサーチなどを通して解決および実証方法について学修研究する科目を選択必修科目として開設します。

 - 共通領域
「特別支援教育特論」「地域福祉特論」「環境教育特論」「社会倫理学特論」等
 - 教育学領域
「学校教育学特論」「教育経営特論」「教育コーディネーション特論」等
 - 教育心理学領域
「発達臨床特論」「認知発達特論」「行動心理学特論」等
 - 教育方法学領域
「教材・授業研究演習」、「カリキュラム研究特論」、「教育相談演習」等
- ③「研究指導科目」

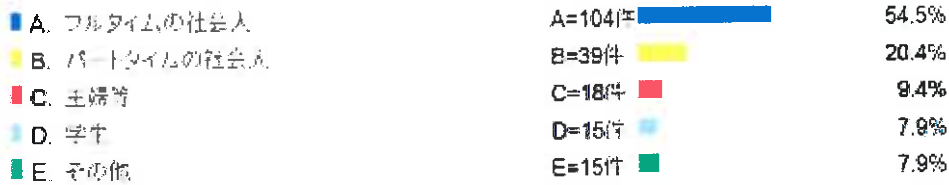
1年次より修士論文作成のための研究指導に関する科目を開講する。

【取得可能資格】

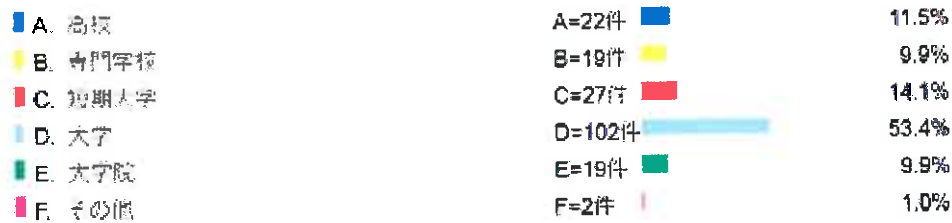
取得可能な教員免許は、小学校専修免許です。

【アンケート設問ごと回答結果】 回答数：191

質問1: 現在はどのような社会的立場ですか



質問2: 最終学歴はなんですか



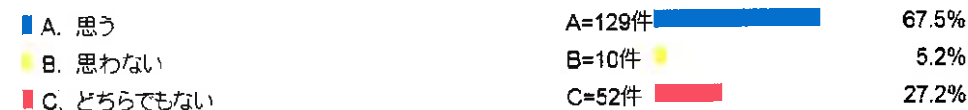
質問3: この大学院は日本にとってよいと思いますか



質問4: 星槎大学にとってよいことだと思いますか



質問5: あなたにとってよいことだと思いますか



質問6: あなたのキャリアアップにつながると思いますか



質問7: 大学院ができた際進学の希望を持っていますか



(資料2 現職教員アンケート)

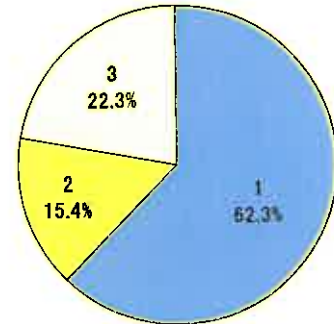
現職教員を対象とする大学院設置に関するアンケート調査結果(2012年3月実施)

【アンケート設問ごと回答結果】回答数：175

学部アンケート同様の内容確認シートをもとに、以下の質問に回答してもらった。

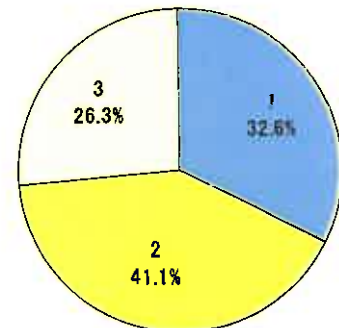
①大学院の教育はあなたにとってのキャリアアップにつながると思えますか

回答選択肢	回答数	比率
1. 思う	109	62.3%
2. 思わない	27	15.4%
3. どちらでもない	39	22.3%



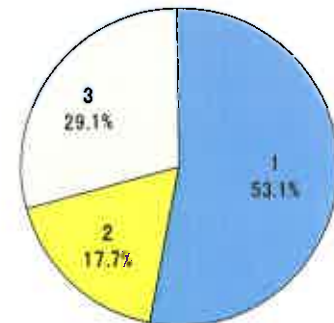
②大学院進学に興味がありますか

回答選択肢	回答数	比率
1. ある	57	32.6%
2. ない	72	41.1%
3. どちらでもない	46	26.3%



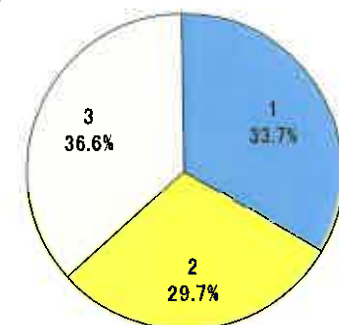
③大学院に入学した際には、専修免許状取得を希望しますか

回答選択肢	回答数	比率
1. する	93	53.1%
2. しない	31	17.7%
3. どちらでもない(既に取得している)	51	29.1%



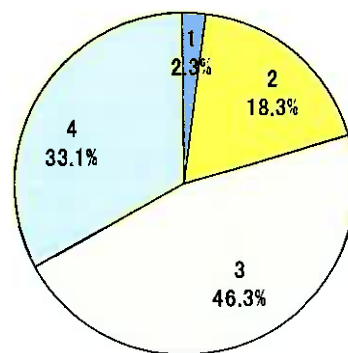
④大学院で学修される場合通信制と通学制のどちらを希望されますか

回答選択肢	回答数	比率
1. 通信制	59	33.7%
2. 通学制	52	29.7%
3. どちらでもよい	64	36.6%



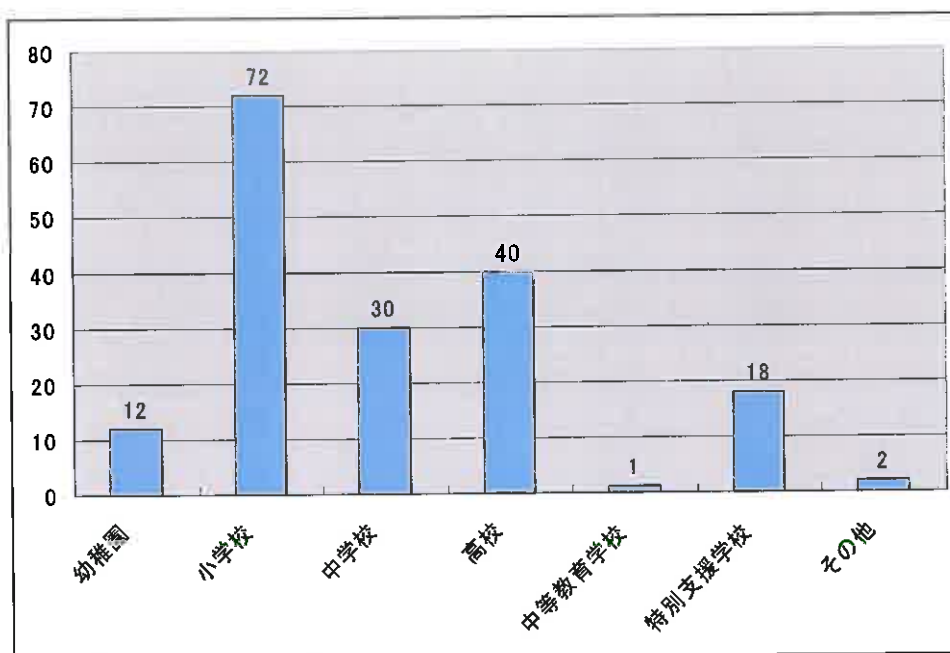
⑤ 本学の大学院(教育学研究科 通信課程)を希望されますか。

回答選択肢	回答数	比率
1. 希望する	4	2.3%
2. 条件が合えば希望する	32	18.3%
3. 希望しない	81	46.3%
4. どちらでもない	58	33.1%

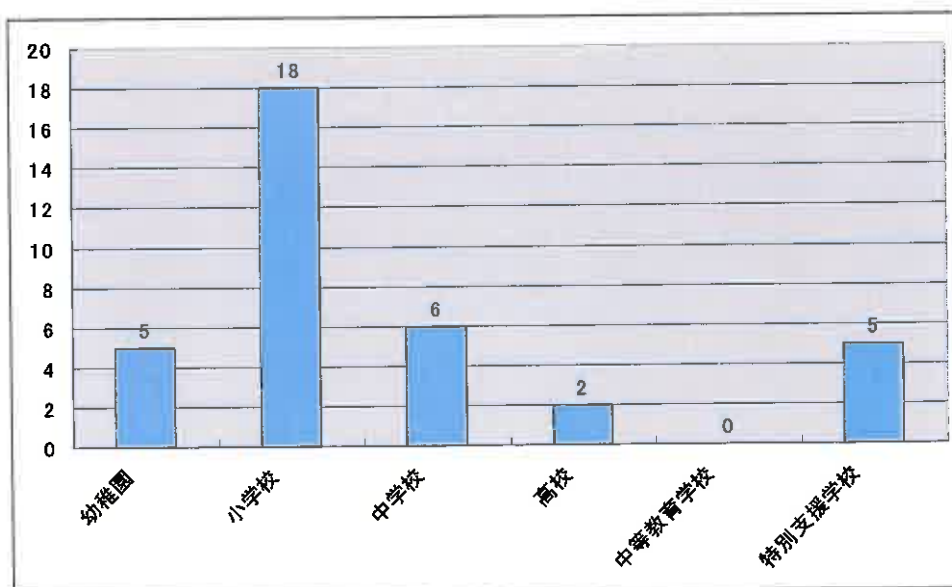


【回答者属性】

(回答者 175 名の所属)



(「希望する」「条件が合えば希望する」と回答した 36 名の所属)

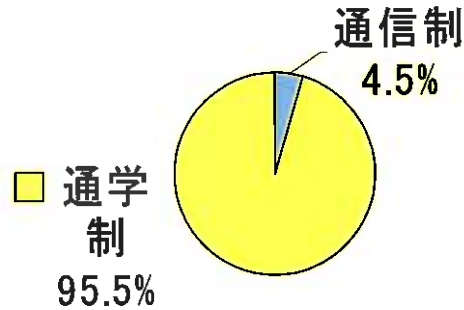


(資料3 通信制大学院を取り巻く状況)

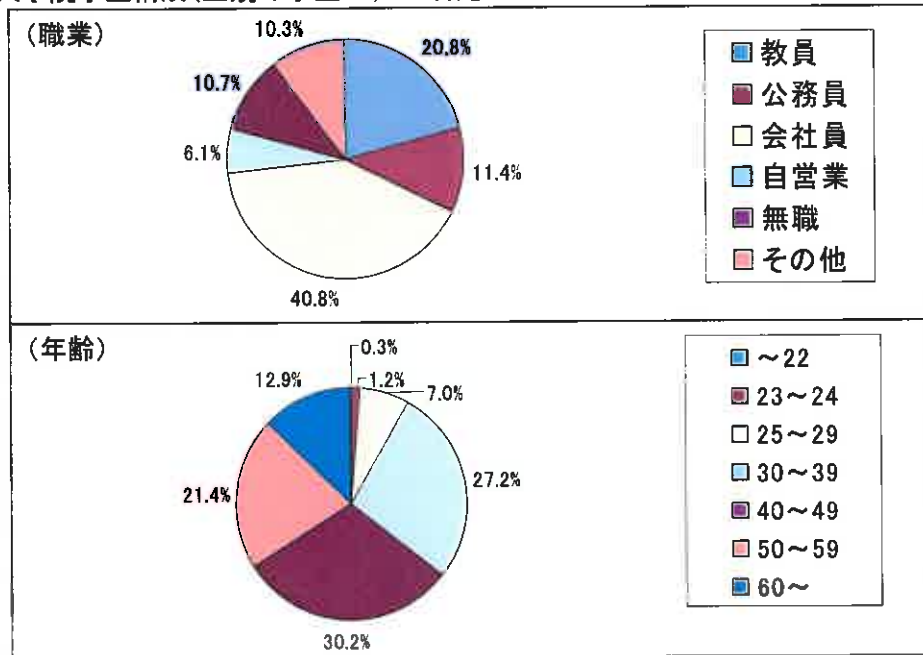
通信制大学院の必要性と現状(平成23年度学校基本調査より)

【在籍者数に見る位置】

通信制大学院の在学学生(科目等履修生含)⇒約8.2千人(うち正規の課程約3.8千人)



【通信制大学院学生構成(正規の学生 3,797名)】



【学生の居住地】

意欲をもって学びたい人が、全国に散在している

【通信制大大学院における課題】

通信制大学院の正規の課程の在学学生数⇒約4千人⇒単年度での修了生数⇒約1千人
仕事をしながらの継続学修の困難さ

⇒ 理由

自学自習の困難さ、学修における孤立感:スクーリングに係る経費・時間の負担感

(資料4 神奈川県教育委員会からの要望書)

平成24年4月24日

学校法人 国際学園理事長

井上 一 殿

神奈川県教育長 藤井 良一



要 望 書

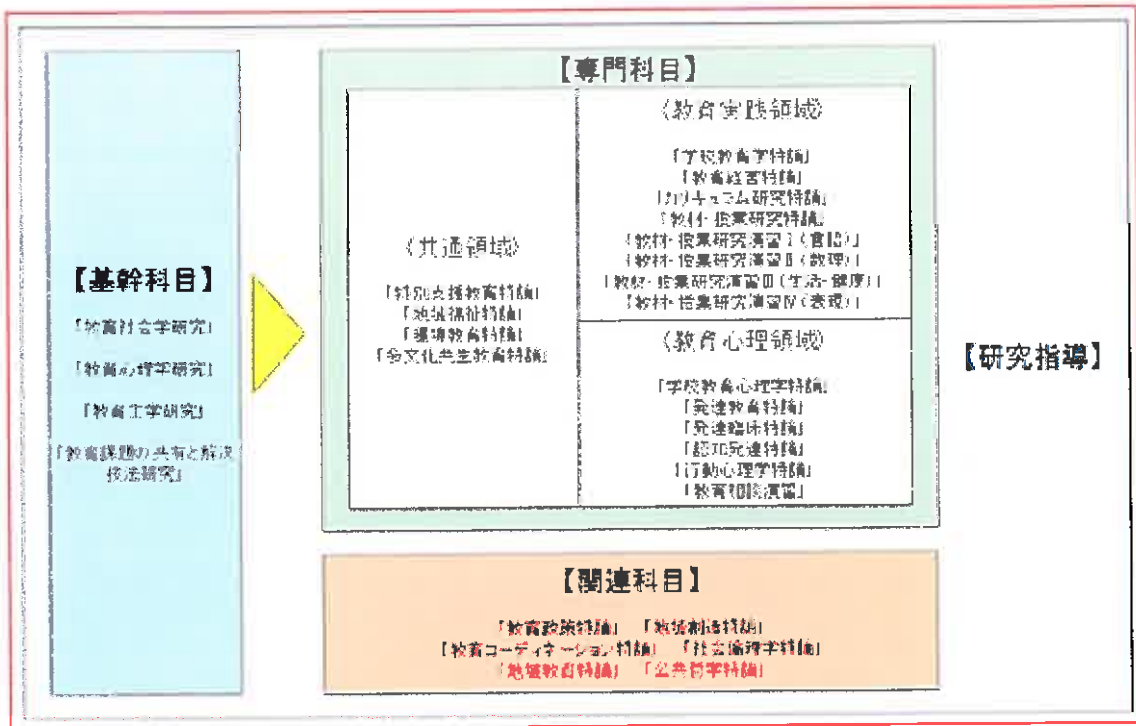
平素から神奈川県教育行政の推進に格別のご尽力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

さて、ご承知のように、本県ではすでに20余年以前から行政と県民の連携協働の下で自然とのふれあい、人とのふれあいを基調とした「ふれあい教育」運動を展開してきました。競争の原理に偏重しない教育の在り方を論議する中で「臨床の知」に立脚した共生と共育の原理に基づく教育実践を学校、家庭、地域それぞれが時には単独で、また時には協議しながら実施してきました。皆様方のご協力の結果、子どもたちの共感するところ、思いやりのところや異なりの相互理解など人間らしい豊かなところの育成に一定の成果を挙げることができました。

そして平成19年度に、当時とは比較できないほど社会が大きく変化してきたことから、「ふれあい教育」の理念をしっかりと継承した新たな教育ビジョン「心ふれあうしなやかな人づくり」を策定しました。ここでは、豊かな人間性と社会性を育むために「心ふれあう教育」や「共に育ち合い」、「学び合う」ことの大切さを指摘しました。そのためには教育に係る多くの人々、とりわけ教員にあっては「ふれあい教育」の理念である共生、共育の視点に立って子どもたちの成長を的確に促し得る、教育における高度の専門的知識・能力、及びそれらを基盤とした実践的指導力の発揮が大いに期待されるところです。

この度、新設を予定されている貴学園 星槎大学大学院の教育学研究科教育学専攻では、まさに上記に相当する教育人材の資質向上に重点が置かれていると理解しています。県教育委員会といたしましても新たな教育ビジョンに掲げる人づくりに向けて鋭意努力し様々な施策を実行してきていることから、貴学園の大学院教育の目指す専門的・力量ある人材養成をつよく要望するとともに、大きな期待を寄せるところであります。

(資料5 科目体系図)



【基幹科目】(必修科目)

我が国の教育課題を俯瞰しつつ、教育社会学、教育心理学、教育工学の視座から教育に関する課題の発見・設定、大学院における研究の遂行、理論を実践に活かしていくための基礎的素養を涵養

【専門科目】(共通領域より2科目選択必修)

研究状況の正確な把握を通して俯瞰的な視座より学校現場や地域における具体的な研究課題を発見・設定し、実例研究、フィールドワーク、アクションリサーチなどを通して解決および実証方法について学修。

「共通領域」として、特別支援教育、福祉、環境、国際関係といった基礎となる本学共生科学部の専門領域と教育を関わらせた科目を設置

養成する人材像に応じて「教育実践領域」「教育心理領域」に区分

【関連科目】

学校を取り巻く教育に関連する基礎的素養を幅広く涵養

【研究指導科目】(必修科目)

1年～2年次を通じて、学修の集大成である修士論文の完成を目指す

(資料 6 研究指導の流れ)

4月入学生

- (3月) 研究計画書提出【研究科研究倫理分科会開催】
- 4月 科目登録・研究指導員決定・研究指導ガイダンス
- 5月
- 6月
- 7月
- 8月
- 9月 【研究科研究倫理分科会開催】
- 10月 研究計画書完成 発表会
- 11月
- 12月
- 1月
- 2月
- 3月 修士論文アウトライン提出
- 4月 修士論文アウトライン発表会
- 5月
- 6月
- 7月
- 8月
- 9月
- 10月 修士論文中間発表会
- 11月
- 12月
- 1月 修士論文提出
- 2月 論文審査
- 3月 研究科発表会

研究指導(個別指導)

10月入学生

- (9月) 研究計画書提出【研究科研究倫理分科会開催】
- 10月 科目登録・研究指導員決定・研究指導ガイダンス
- 11月
- 12月
- 1月
- 2月
- 3月 【研究科研究倫理分科会開催】
- 4月 研究計画書完成 発表会
- 5月
- 6月
- 7月
- 8月
- 9月 修士論文アウトライン提出
- 10月 修士論文アウトライン発表会
- 11月
- 12月
- 1月
- 2月
- 3月
- 4月 修士論文中間発表会
- 5月
- 6月
- 7月 修士論文提出
- 8月 論文審査
- 9月 研究科発表会

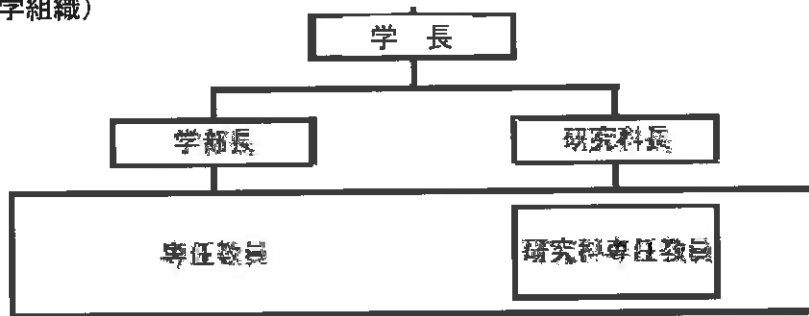
研究指導(個別指導)

【教学組織図】

教育学研究科教育学専攻は、共生科学部共生科学科の教育関連領域を基礎とします。
 それゆえ、研究科と学部の教育活動及び研究活動が、ともに連携連動しつつ十分関連性を持ち研究を深められるように、研究科と学部の教員組織を分けることなく接続し教員組織を編成します。

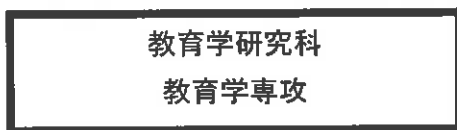
その際、研究科科目担当教員の過度な負担による教育研究活動の停滞がないように、また、研究科における運営の独自性の一定程度の確保も可能になるように、担当科目のバランスだけでなく、教授会及び各種委員会に関しても、配慮して組織します。

(星槎大学教学組織)



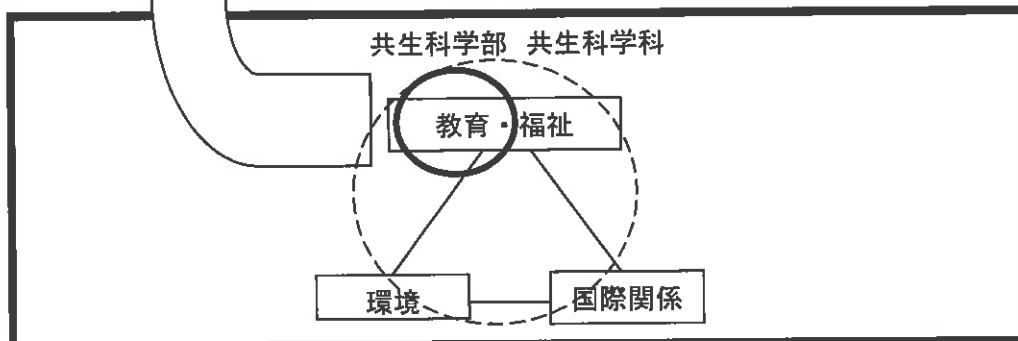
【教育研究構成図】

大学院



教育学研究科教育学専攻は、共生科学部共生科学科の持つ専門領域である、教育、福祉、環境、国際関係のうち、共生科学のものの、主として「教育分野」を基礎とするものです。

学部



(資料 8 教員負担のシミュレーション)

教員の業務負担に関するシミュレーションを以下に示す。

1. 「年間スケジュール」及び「週間スケジュール」は、研究指導を担当する教員の標準的なものである。
2. 「年間スクーリング指導／添削指導／試験採点予測」は、研究科入学定員を充足した場合の2年目の科目登録者数、学部に関しては学部定員をもとに、【年間スクーリング指導／添削指導／試験採点予測】の表欄外に明記した根拠で職位別に算出している。
3. 「年間業務時間の内訳予測」に関しては、職位別に、2に示す数値をもとに、研究指導に要する時間、及び大学運営に関する業務時間、研究に要する時間等を算出した。
4. 合わせて学部収容定員をもとに基礎となる学部業務負担に関しても細部を試算して記載した。

【年間スケジュール】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
修士論文アウトライン発表会(2年)	研究指導ガイダンス(2年)	スクーリング(学部)	スクーリング(研究科)	スクーリング(学部)	スクーリング(研究科)	スクーリング(学部)	スクーリング(研究科)	スクーリング(学部)	スクーリング(研究科)	論文審査(2年)	研究科発表会(2年)
研究指導											
添削指導 試験採点											

※研究指導を担当している教員の標準的な年間スケジュール

【月間・週間スケジュール】

	1週	2週	3週	4週
月	休日	休日	休日	休日
火	研究指導/添削指導	研究指導/添削指導	研究指導/添削指導	休日
水	研究指導/添削指導	委員会	研究科委員会	教授会
木	研究日	研究日	研究日	研究日
金	研究指導/添削指導	研究指導/添削指導	研究指導/添削指導	〈地方等移動日〉
土	研究指導/添削指導	スクーリング	研究指導/添削指導	スクーリング
日	休日	休日	休日	〈地方等移動日〉

※研究指導を担当している教員の標準的な年間スケジュール

【共生科学部における年間教員業務負担】

①担当科目数

職位	教授	准教授	講師
基準担当科目数	1 科目	2 科目	3 科目

②担当科目履修数及びレポート添削指導数、レポート添削時間

職位	教授	准教授	講師
担当科目履修数	284 名	569 名	853 名
レポート添削指導数	125 通	250 通	375 通
レポート添削時間	62.5 時間	125 時間	187.5 時間

③試験採点

職位	教授	准教授	講師
試験採点数	284 点	569 点	853 点
試験採点時間数	71 時間	142.25 時間	213.25 時間

④スクーリング指導日数

職位	教授	准教授	講師
スクーリング日数	6 日	12 日	18 日
スクーリング指導時間	36 時間	72 時間	108 時間
スクーリング移動時間	32 時間	64 時間	96 時間
合計	68 時間	136 時間	204 時間

【教育学研究科における年間教員業務負担】

①担当科目数

職位	教授	准教授	講師
基準担当科目数	2 科目	1 科目	1 科目

②担当科目履修数及びレポート添削指導、()内数字は担当科目レポート添削数を示す

職位	教授	准教授	講師
担当科目履修数	30 名	15 名	15 名
レポート添削指導数	30 通	15 通	15 通
レポート添削時間	30 時間	15 時間	15 時間

③試験採点

職位	教授	准教授	講師
試験採点数	30 点	15 点	15 点
試験採点時間数	15 時間	8.5 時間	8.5 時間

④スクーリング指導日数

担当科目数

職位	教授	准教授	講師
スクーリング日数	4 日	2 日	2 日

スクーリング指導時間	24 時間	12 時間	12 時間
職位	研究指導教員	研究指導補助教員	平均
研究指導時間	440 時間／教員	183 時間／教員	282 時間

④現職教員学生に対する「実践的指導力向上を図るための対応

対応内容	オリエンテーション	教育実践ポートフォリオ	授業参観
総指導対応時間	30 時間	120 時間	420 時間
平均指導対応時間	2.3 時間	9.3 時間	32.3 時間

【専任教員の業務負担】

上記業務に加えて、以下に示す大学運営公務活動、研究活動、社会貢献活動を加えたものが専任教員の業務負担となります。

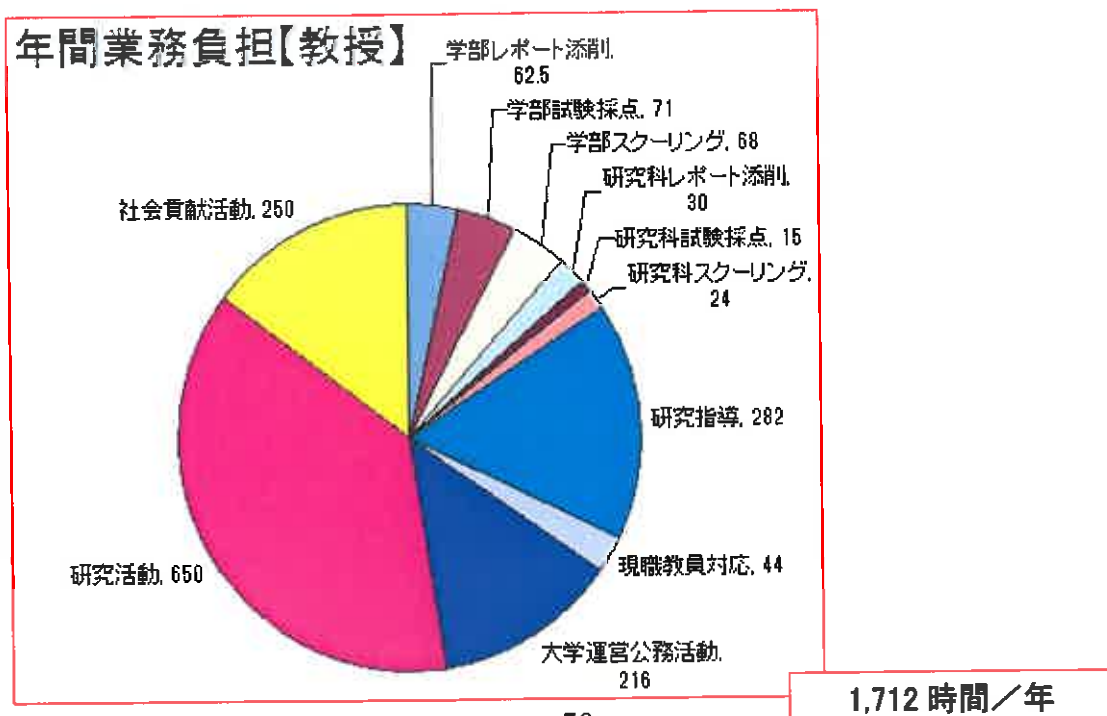
大学運営公務活動	会議委員会等参画数	会議時間数(月)	会議時間数(年)
教授	6	18 時間	216 時間
准教授	5	15 時間	180 時間
講師	5	15 時間	180 時間

※会議委員会等参画数は、教授会及び研究科委員会、研究科分科会、教授会常置委員会

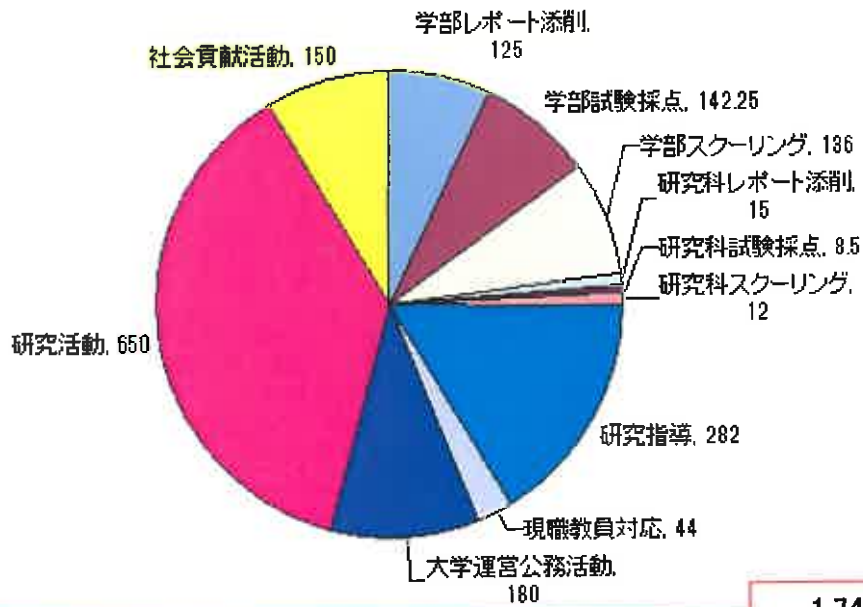
研究・社会貢献活動	研究活動(年間)	社会貢献活動(年間)
教授	650 時間	250 時間
准教授	650 時間	150 時間
講師	550 時間	50 時間

【職位別教員年間業務負担】

職位別教員年間業務負担は、教授 1712 時間、准教授 1777 時間、講師 1778 時間となっています。以下に職位別業務負担をグラフで示します。

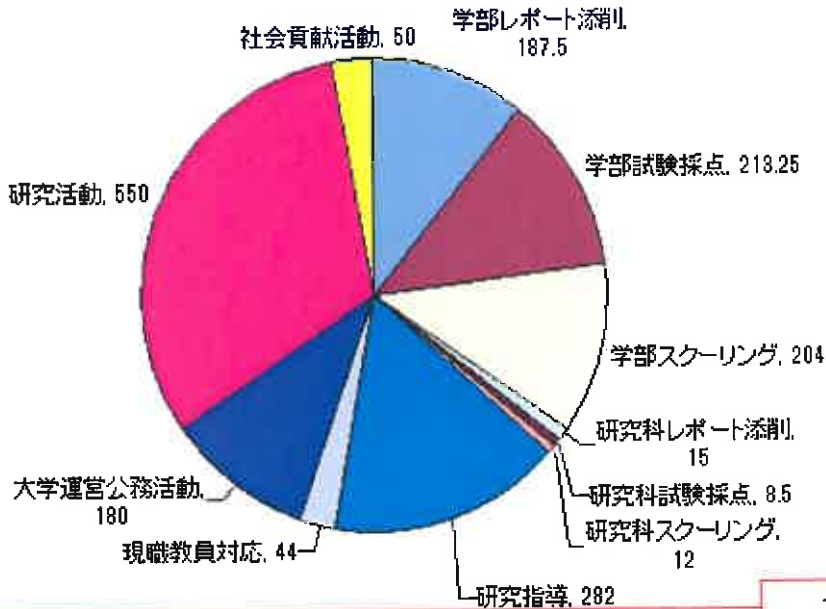


年間業務負担【准教授】



1,744 時間 / 年

年間業務負担【講師】



1,746 時間 / 年

(資料9 テレビ会議システム)

2004年度より、音声・映像の安定した同時双方向通信が可能な、専用のテレビ会議システムを学部のスクーリングに導入しています。

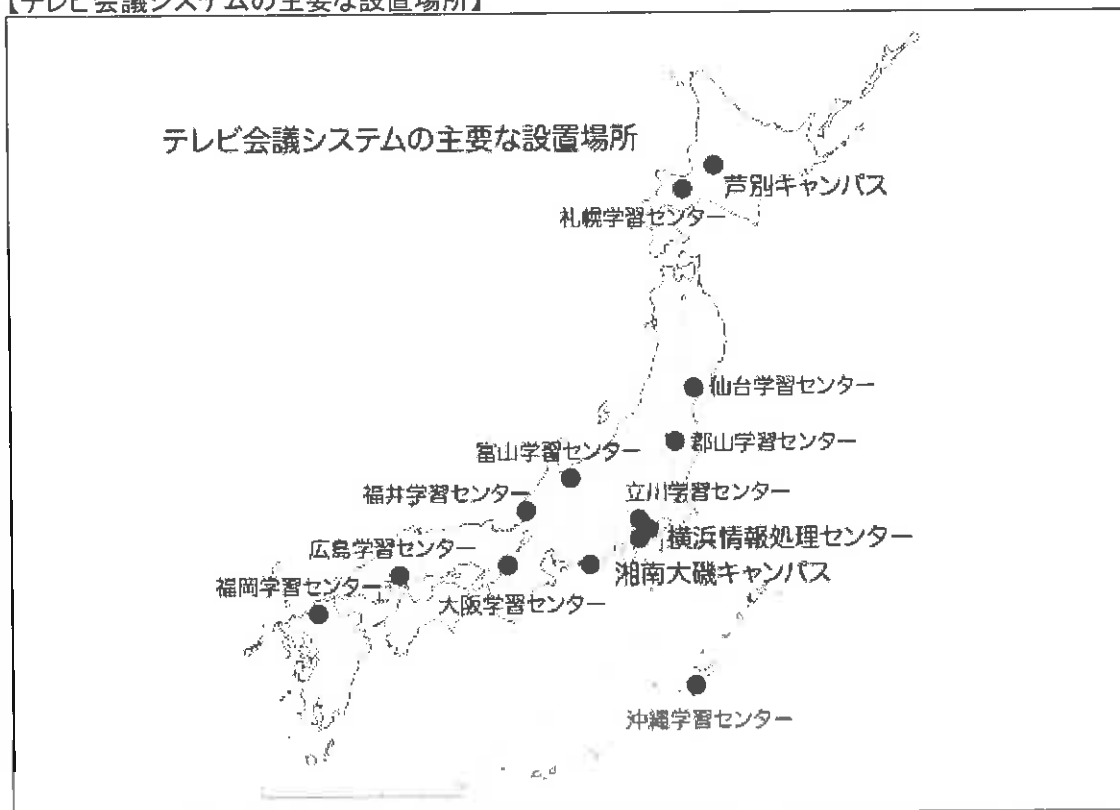
現在は、湘南大磯キャンパス、芦別キャンパスの他、全国の学生支援の拠点である横浜情報処理センター、スクーリング会場となる全国の学習センターなど全13カ所にテレビ会議端末及び、大型モニター、プロジェクター等などの映像・音響設備を設置し、常時通信可能な体制を整備しています。

また、ネットワークについては、専門業者への外部委託により、日常のメンテナンスの他、予期しないトラブルに対応できる体制を整えています。

【テレビ会議通信のための主要設備】

区分	製品名等	設置場所
テレビ会議システム端末	SONY PCS-G50、PCS-1、PCS-11 他	湘南大磯キャンパス
大型モニター	Panasonic プラズマモニター	芦別キャンパス
プロジェクター	EPSON EB1730W 他	横浜情報処理センター
スクリーン等	キクチ科学研究所 GFP-100W 等	学習センター(全国)
音響装置	YAMAHA MSR100 MACKIE1202VLZ3 REXER RLX-300 RZM-800 他	湘南大磯キャンパス 芦別キャンパス 横浜情報処理センター

【テレビ会議システムの主要な設置場所】



【星槎大学のテレビ会議システムの特徴】

- ・同時最大 30 会場を接続した実施が可能(研究科では 5 会場を上限に展開)
- ・毎秒 15～30 フレームで大画面(スクリーン、大型モニター等)の映像の配信が可能
- ・双方向性が高く、全く違和感なく同時会話が可能(学生からの質問への対応、各会場間の会話等)
- ・スクーリングや研究指導等の個別指導にも活用
- ・全国 13 か所に常設するとともに、IP 回線の利用により、容易に臨時会場の設置が可能



常設の TV 会議機器類

受講する学生

セミナー等でも活用

【各会場への職員の常駐と研修】

全国の設定会場には職員が常駐しており、TV 会議を利用したスクーリングにおいても、各会場でのグループワーク、意見発表などを可能にしている他、スクーリング時以外でも常時利用することができる体制を整えています。また、職員には OJT を含め、機器類の扱い等についての様々な研修を実施しています。

【8 年間の実績】

同システムは 8 年間にわたり、スクーリングや各種大学運営のための会議の他、国際シンポジウムや、教員免許更新講習、各種セミナー・講演会など様々な場面で年間を通じて活用しています。

【星槎大学はスクーリングでの交流機会を重視しています】

星槎大学は通信制の利点をいかして多くの社会人学生が学んでいます。同時に通信制の課題の一つである日常の学修については、担当教員による個別指導、SNS 等を利用した遠隔指導などにより学生への支援をしています。それゆえ、教職員や学生同士が直接交流できる限られた貴重な機会であるスクーリングの機会を重視しています。



TV 会議によるスクーリングでもグループワーク・グループ発表などを多く取り入れた授業を実施しています。

(資料 10 スクーリング／レポート添削／科目修得試験実施体制)

【1 スクーリング】

《スクーリング受講の流れ》

履修科目の決定 (研究計画書を検討の上、履修科目を決定)

↓

スクーリング受講申込

↓

スクーリング受講

↓

試験受験

↓

スクーリング評価 (担当教員が評価を行う。合格した学生はレポート評価が合格している場合「科目修得試験」の受験資格を得る)

《スクーリング実施スケジュール 2013年4月～2014年3月》

湘南大磯キャンパスにて実施すると同時に、演習科目以外(研究及び特論)は全国スクーリング会場にて開講

区分	科目名	申込期間	面接授業実施期間	
基幹科目	教育社会学研究	～2013/6/6 ～2013/11/7	2013/7/6 2013/12/7	
	教育心理学研究	～2013/6/7 ～2013/11/8	2013/7/7 2013/12/8	
	教育工学研究	～2013/6/27 ～2013/11/14	2013/7/27 2013/12/14	
	教育課題の共有と解決技法研究	～2013/5/1 ～2013/10/30	2013/6/2 2013/11/12/1	
専門科目	共通領域	特別支援教育特論	～2013/6/28 ～2013/11/28	2013/7/28 2013/12/28
		地域福祉特論	～2013/6/29 ～2013/11/15	2013/7/29 2013/12/15
		環境教育特論	～2013/6/30 ～2013/11/21	2013/7/30 2013/12/21
		多文化共生教育特論	～2013/6/30 ～2013/11/22	2013/7/31 2013/12/22
	教育実践領域	学校教育学特論	～2013/7/23 ～2013/11/25	2013/8/23 2013/12/25
		教育経営特論	～2013/7/24 ～2013/11/26	2013/8/24 2013/12/26
		カリキュラム研究特論	～2013/7/2	2013/8/2
		教材・授業研究特論	～2013/7/3	2013/8/3
		教材・授業研究演習Ⅰ(言語)	～2013/7/5	2013/8/5～7
		教材・授業研究演習Ⅱ(数理)	～2013/7/9	2013/8/9～11

教育心理領域	教材・授業研究演習Ⅲ(生活・健康)	～2013/7/12	2013/8/12～14
	教材・授業研究演習Ⅳ(表現)	～2013/7/19	2013/8/16～18
	学校教育心理学特論	～2013/7/2 ～2013/12/11	2013/8/2 2014/1/11
	発達教育特論	～2013/7/26 ～2013/11/28	2013/8/26 2013/12/28
	発達臨床特論	～2013/7/3 ～2013/12/12	2013/8/3 2014/1/12
	認知発達特論	～2013/7/4 ～2014/1/1	2013/8/4 2014/2/1
	行動心理学特論	～2013/7/5 ～2014/1/2	2013/8/5 2014/2/2
	教育相談演習	～2013/7/19	2013/8/19～21
関連科目	教育政策特論	～2013/7/25 ～2013/11/27	2013/8/25 2013/12/27
	地域創造特論	～2013/6/29 ～2013/11/15	2013/7/29 2013/12/15
	教育コーディネーション特論	～2013/6/30 ～2013/11/21	2013/7/30 2013/12/21
	社会倫理学特論	～2013/6/30 ～2013/11/22	2013/7/31 2013/12/22
	地域教育特論	～2012/7/4 ～2014/1/1	2013/8/4 2014/2/1
	公共哲学特論	～2013/7/22 ～2014/1/2	2013/8/22 2014/2/2

【2 レポート添削】

《レポート添削の流れ》

履修科目の決定 (研究計画書を検討の上、履修科目を決定)



学修 (テキスト及び学習指導書により学生は自学自習)



レポート課題提出 (添削指導日程に従い、決められた課題をレポートとして提出)



添削指導 (担当教員はレポートの添削指導をおこなう)



レポート課題合格 (合格した学生はスクーリング評価が合格している場合「科目修得試験」の受験資格を得る)

《レポート添削スケジュール 2013年4月～2014年3月》

提出期	提出締切り	返却	備考
I期	～2013/5/8	～2013/5/31	
II期	～2013/8/8	～2013/8/31	
III期	～2013/11/8	～2013/11/31	
IV期	～2014/2/8	～2014/2/28	

※ I期～IV期で科目を問わずレポート提出は可能。

【3 科目修得試験】

《科目修得試験の流れ》

レポート課題合格・スクーリング試験合格

↓

科目修得試験受験申込

↓

科目習得試験受験

↓

科目評価(担当教員により、試験評価に加え、レポート評価、スクーリング評価も総合して評価を行う)

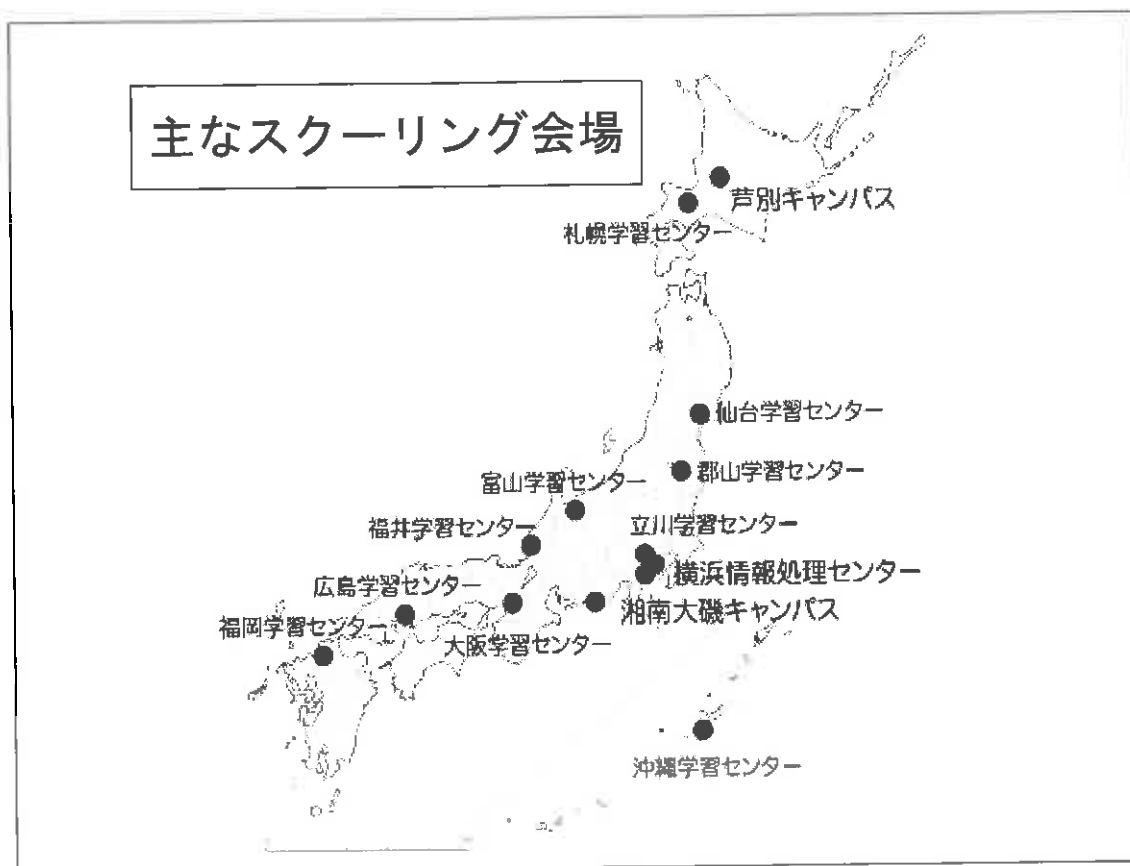
※研究及び特論科目 スクーリング評価 25%、レポート評価 25%、試験評価 50%

※演習科目 スクーリング評価 50%、試験評価 50%

《科目修得試験スケジュール 2013年4月～2014年3月》

実施期	試験申し込み	試験実施日	備考
前期-1	～2013/8/21	2013/8/31	
前期-2	～2013/8/22	2013/9/1	
前期-3	～2013/8/27	2013/9/7	
前期-4	～2013/8/28	2013/9/8	
後期-1	～2014/2/19	2014/3/1	
後期-2	～2014/2/20	2014/3/2	
後期-3	～2014/2/26	2014/3/8	
後期-4	～2014/2/27	2014/3/9	

(資料 11 スクーリング実施会場)

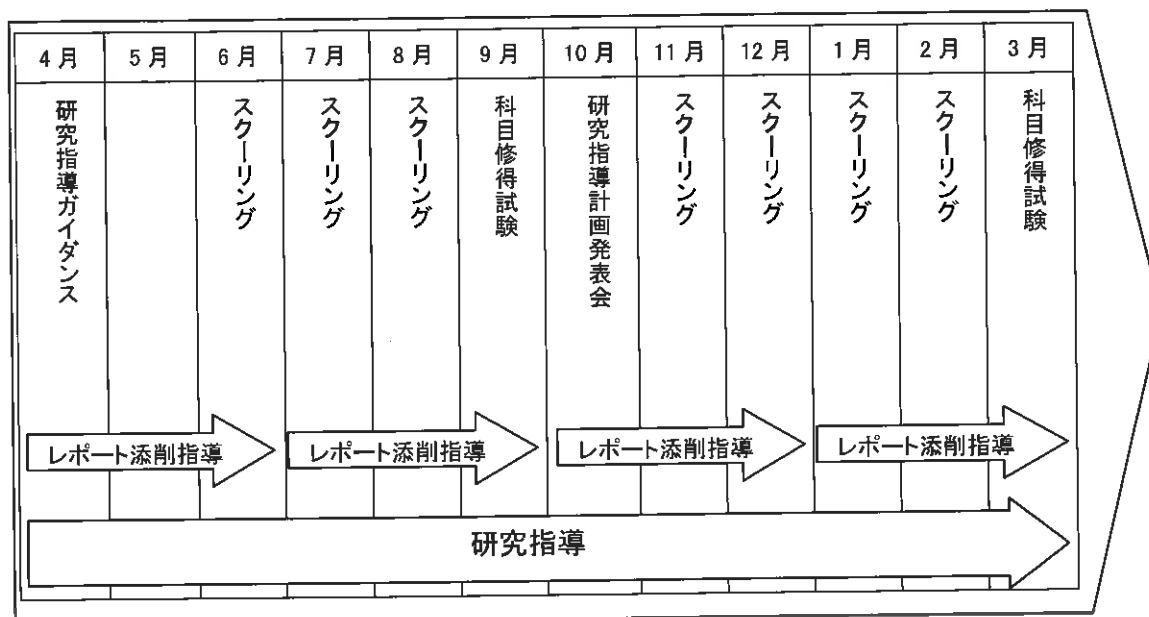


開講会場	位 置
湘南大磯キャンパス	神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2
芦別キャンパス	北海道芦別市緑泉町 5-14
札幌学習センター	札幌市中央区北五条西 12-16
仙台学習センター	仙台市宮城野区宮千代 2-18-7
郡山学習センター	福島県郡山市栄町 5-16
立川学習センター	東京都立川市錦町 6-9-5
浜松学習センター	浜松市中区上浅田 2-4-30
富山学習センター	富山県富山市愛宕町 2-4-6
福井学習センター	福井市若杉町 4-2618
大阪学習センター	大阪市北区大淀南 1-10-20
広島学習センター	広島市中区河原町 2-11
福岡学習センター	福岡市東区和白丘 1-20-9
沖縄学習センター	沖縄県沖縄市久保田 1-10-49

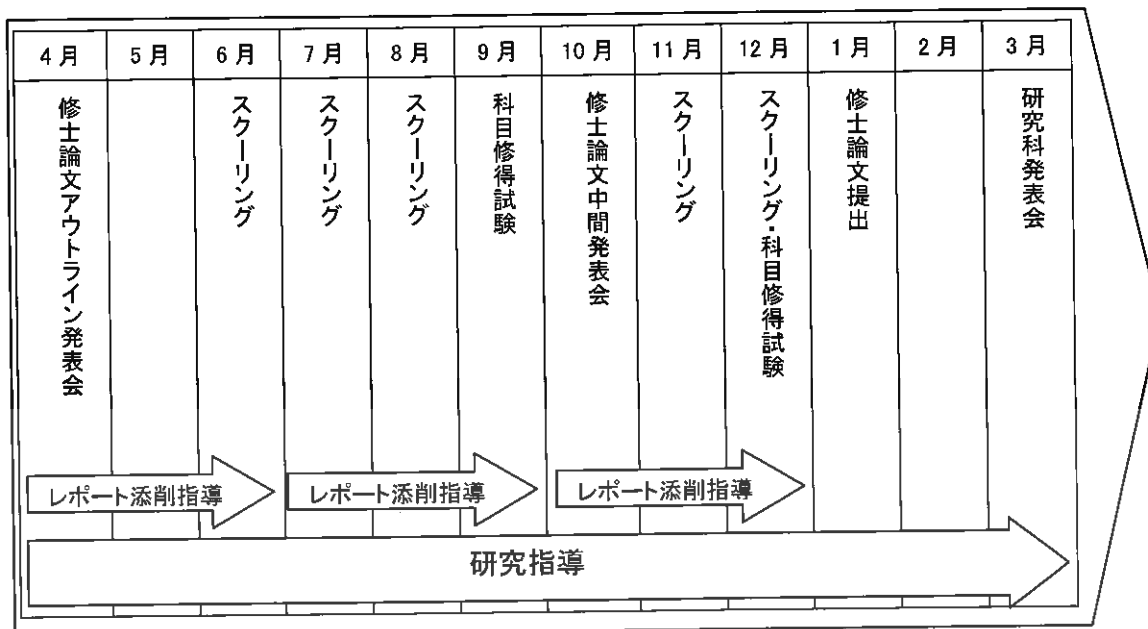
※以上の会場はテレビ会議システムを常設しており、学生の希望によってスクーリング受講や履修相談、研究指導を実施することができる。

(資料 12 入学から修了までの指導計画)

【1 年次指導計画】



【2 年次指導計画】



(資料 13 履修モデル)

①小学校における高度実践型教員の養成

A 高度な授業実践力を備えた中堅教員の養成を主たる目的としたモデル

(履修モデルの特徴)

専門科目の教育実践領域を中心として、各教科における指導法や教材開発等のスキルアップを図ることとともに、共通領域において本学共生科学部の専門領域に関わりのある特別支援教育、環境教育などの基礎的素養を涵養するための科目を履修します。

区分		科目名	単位数	備考
基幹科目		教育社会学研究	2 (0.5)	必修科目
		教育心理学研究	2 (0.5)	
		教育工学研究	2 (0.5)	
		教育課題の共有と解決技法研究	2 (2)	
専門科目	共通	特別支援教育特論	2 (0.5)	共通領域より 2 科目以上選択必修
		環境教育特論	2 (0.5)	
	教育実践	カリキュラム研究特論	2 (0.5)	選択科目
		教材・授業研究特論	2 (0.5)	
		教材・授業研究演習Ⅰ(言語)	2 (2)	
		教材・授業研究演習Ⅱ(数理)	2 (2)	
		教材・授業研究演習Ⅲ(生活・健康)	2 (2)	
	教材・授業研究演習Ⅳ(表現)	2 (2)		
心理教育	教育相談演習	2 (2)		
研究指導	研究指導	4 (2)	必修科目 (1~2 年次にかけて 2 年間の履修が必要)	
合計			30(17.5)	
※単位数欄の () 内数字は総単数内のスクーリング単位数を示す。講義科目は、基本 7.5 時間のスクーリングを行うため、1 科目のスクーリング単位を 0.5 単位にて計算。演習科目はすべてをスクーリングで実施。本モデルで修了までに必要なスクーリング単位は 17.5 単位となる。				

①小学校における高度実践型教員の養成

B 「特別な教育的ニーズ」を持つ児童に対応する専門的力量を備えた教員の養成を主たる目的としたモデル

(履修モデルの特徴)

専門科目の教育心理領域を中心として、不登校の児童、発達障害をもつ児童、外国に関わる児童など「特別な教育的ニーズ」を持つ児童に対してその現状を正しく認識し、適切に対応できる専門的な知識・技能を備え、他の教員と協働して問題解決が図ることが可能な専門的力量を備えた教員を養成するための科目を履修します。

区分		科目名	単位数	備考	
基幹科目		教育社会学研究	2 (0.5)	必修科目	
		教育心理学研究	2 (0.5)		
		教育工学研究	2 (0.5)		
		教育課題の共有と解決技法研究	2 (2)		
専門科目	共通	特別支援教育特論	2 (0.5)	共通領域より2科目以上選択必修	
		多文化共生教育特論	2 (0.5)		
	実践教育	学校教育学特論	2 (0.5)	選択科目	
		教育心理	学校教育心理学特論		2 (0.5)
			発達臨床特論		2 (0.5)
			認知発達特論		2 (0.5)
			行動心理学特論		2 (0.5)
			教育相談演習		2 (2)
	関連科目	教育コーディネーション特論	2 (0.5)		
	研究指導	研究指導	4 (2)	必修科目(1~2年次にかけて2年間の履修が必要)	
合計			30(11.5)		

※単位数欄の()内数字は総単数内のスクーリング単位数を示す。講義科目は、基本7.5時間のスクーリングを行うため、1科目のスクーリング単位を0.5単位にて計算。演習科目はすべてをスクーリングで実施。本モデルで修了までに必要なスクーリング単位は11.5単位となる。

①小学校における高度実践型教員の養成

C 学校現場が抱える諸課題を解決できる高度な実践力を備えた指導的役割を果たす教員の養成を主たる目的としたモデル

(履修モデルの特徴)

専門科目より、共通領域、教育実践領域、教育心理領域を横断的に学ぶことで、学力の向上や活用力の育成、不登校児童への対応、特別支援教育、外国に関わる児童への教育、学級崩壊など学校現場が抱える諸課題に対して、各教科や総合的な学習に資するカリキュラムや教材、指導法の研究開発、様々なニーズや問題を抱える児童への理解および対応・指導方法の探究、家庭や地域との連携強化を中心に、その問題点を的確に捉え、実践をベースとして創造的に問題解決を図ることを目指す科目を履修します。

区分		科目名	単位数	備考
基幹科目		教育社会学研究	2 (0.5)	必修科目
		教育心理学研究	2 (0.5)	
		教育工学研究	2 (0.5)	
		教育課題の共有と解決技法研究	2 (2)	
専門科目	共通	特別支援教育特論	2 (0.5)	共通領域より 2 科目以上選択必修
		多文化共生教育特論	2 (0.5)	
	教育実践	学校教育学特論	2 (0.5)	選択科目
		カリキュラム研究特論	2 (0.5)	
		教材・授業研究特論	2 (0.5)	
	教育心理	学校教育心理学特論	2 (0.5)	
		発達教育特論	2 (0.5)	
教育相談演習		2 (0.5)		
関連科目	教育コーディネーション特論	2 (2)		
研究指導	研究指導	4 (2)	必修科目(1~2年次にかけて2年間の履修が必要)	
合計			30(11.5)	
※単位数欄の()内数字は総単数内のスクーリング単位数を示す。講義科目は、基本7.5時間のスクーリングを行うため、1科目のスクーリング単位を0.5単位にて計算。演習科目はすべてをスクーリングで実施。本モデルで修了までに必要なスクーリング単位は11.5単位となる。				

② 地域の教育・福祉に関わる諸課題に協働して取り組むことができる教育・福祉関連業務に従事する高度専門職業人の養成を主たる目的としたモデル

(履修モデルの特徴)

専門科目の共通領域を中心に、地域教育力の向上、外国に関わる子ども支援、地域福祉など地域の特性や地域の教育・福祉に関わる課題を的確に把握し、本学の建学の精神である共生の理念のもと、専門的な立場から具体的な課題に関連づけて解決方法を研究開発し、地域や学校教育に携わる人々と協働して問題解決を図り、地域の特性に合った教育環境を創造することが可能な高度専門職業人を養成するための科目を履修します。

区分		科目名	単位数	備考
基幹科目		教育社会学研究	2 (0.5)	必修科目
		教育心理学研究	2 (0.5)	
		教育工学研究	2 (0.5)	
		教育課題の共有と解決技法研究	2 (2)	
専門科目	共通	特別支援教育特論	2 (0.5)	共通領域より 2 科目以上選択必修
		地域福祉特論	2 (0.5)	
		多文化共生教育特論	2 (0.5)	
	実践教育	学校教育学特論	2 (0.5)	選択科目
		教育経営特論	2 (0.5)	
関連科目		教育政策特論	2 (0.5)	
		地域創造特論	2 (0.5)	
		教育コーディネーション特論	2 (0.5)	
		社会倫理学特論	2 (0.5)	
研究指導	研究指導	4 (2)	必修科目 (1~2 年次にかけて 2 年間の履修が必要)	
合計			30 (10)	
<p>※単位数欄の () 内数字は総単数内のスクーリング単位数を示す。講義科目は、基本 7.5 時間のスクーリングを行うため、1 科目のスクーリング単位を 0.5 単位にて計算。演習科目はすべてをスクーリングで実施。本モデルで修了までに必要なスクーリング単位は 10 単位となる。</p>				

③ 特別支援教育に携わる研究者の養成を主たる目的としたモデル

(履修モデルの特徴)

専門科目の教育心理領域を通じて、特別支援教育に関わる教育学、心理学を専門領域として体系的に学修するとともに、研究指導を通して、大学院博士後期課程に進学して継続的に研究に取り組む研究者としての専門的力を育成するための科目を履修します。

区分		科目名	単位数	備考
基幹科目		教育社会学研究	2 (0.5)	必修科目
		教育心理学研究	2 (0.5)	
		教育工学研究	2 (0.5)	
		教育課題の共有と解決技法研究	2 (2)	
専門科目	共通	特別支援教育特論	2 (0.5)	共通領域より 2 科目以上選択 必修
		多文化共生特論	2 (0.5)	
	実践教育	学校教育学特論	2 (0.5)	選択科目
		教育経営特論	2 (0.5)	
	教育心理	学校教育心理学特論	2 (0.5)	
		発達臨床特論	2 (0.5)	
		認知発達特論	2 (0.5)	
		行動心理学特論	2 (0.5)	
	関連科目	社会倫理学特論	2 (0.5)	
	研究指導	研究指導	4 (2)	必修科目 (1~2 年次にかけて 2 年間の履修が必要)
合計			30 (10)	
<p>※単位数欄の () 内数字は総単位数内のスクーリング単位数を示す。講義科目は、基本 7.5 時間のスクーリングを行うため、1 科目のスクーリング単位を 0.5 単位にて計算。演習科目はすべてをスクーリングで実施。本モデルで修了までに必要なスクーリング単位は 10 単位となる。</p>				